

満を持して高級店で勝負 さらなる高みを目指す兄弟鮪



鮪 晏

まえかわ ひろき

前川 洋輝氏

1987年金沢市生まれ
石川県調理師専門学校卒業後、岡山県の結婚式場「ザ マグリット」で和・洋・中などの料理を取り入れたフュージョン料理を学ぶ。金沢にUターンし、系列店の結婚式場「ディスティノ」を経て、市内の回転寿司店に入店。店長を務める
趣味：目的だけでなく、途中のプロセスも楽しみながらの“ひとり旅”

まえかわ こうしろう

前川 紘四朗氏

1990年金沢市生まれ
石川県調理師専門学校卒業後、野々市の魚店などを経て、市内の回転寿司店に入店。
副店長を務める
趣味：お酒、筋トレ

近年、数々の高級寿司店が出店し、激戦区の様相を呈する金沢に、また新たに注目のお店が登場。6月8日、金沢市泉野出町に「鮪晏(あん)をオープンした前川洋輝・紘四朗ご兄弟に、開店のいきさつや意気込みを語っていただきました。

時代変わる寿司業界
満足いく味を求めて挑戦

兄弟ともに幼い頃から食べるのが大好きでした。好きが高じて、高校時代は二人で回転寿司店でアルバイトをしていたほどのです。その流れで進学先には調理専門学校を選びました。卒業後、僕は岡山県有数の結婚式場に、弟は飲食店専門の鮮魚店に就職しました。岡山時代には和洋中の料理の経験を積み、お客様をいかに楽しませるかといったサービスや雰囲気づくりも学ばせていただきました。一方で、弟は魚の知識を学び、素材を吟味する確かな目を養っていましたね。

約4年の修業後、金沢に戻ると「寿司店の立ち上げを手伝ってほしい」とのお誘いがあり、なんとそこはかつてバイトしていた店の跡地にできる新店でした。なじみ深い寿司

業界にご縁を感じ、弟を誘い入店する運びに。ちなみにこの店は、回転寿司と銘打っていたものの、街場の寿司店と同じようなスタイル。早朝に市場に向いて仕入れし、外国産の魚は極力使わないようにしていました。やがて「安くて美味しい」と評判の繁盛店になり、僕は店長、弟は副店長として、やりがいを感じて日々でした。

そんな状況を「変えたのがコロナ禍です。終息すると今度は物価高騰で大打撃を受け、建物の老朽化と相まって昨年、閉店しました。残念がるお客様も多かったのですが、時代の波を思い知らされましたね。兄弟ともにフリーとなり今後の道を探っていたところ、「カウンターメインの高級寿司店をやってみないか」とのお声がかかりました。当初は身に余るのではないかと迷いましたが、これまでやってきた大衆寿司

店でお客様を満足させることが難しくなっている中、自分たちを向上させていくためにもチャレンジが必要と考えたんです。

兄弟で惚れ込む魚
確かな仕事で魅力伝える

開店にあたり、県内外のさまざまな寿司店を巡って研究を重ねながら、岡山での修業時代からお世話になっている「ザ マグリット」の羽原社長からいろいろとアドバイスをいただき、設計やしつらい器などの準備を進めてきました。せつかくなので岡山と石川の器のコラボレーションをやってみようと、両県を代表する備前焼と九谷焼を使うことに。特に備前焼では、名工を輩出する窯元の素晴らしい器の数々を寿司とともにご堪能いただけたらと思います。

肝心の鮪では中途半端なことはいらないし、自分たちが本当に納得できるネタのみを扱い、ガリやワ



本通りから少し奥まった住宅地に落ち着いた佇まいをみせる「鮪晏」

「ビタミンCの新時代を切り開く」 新テクノロジーリポソーム型 ビタミンCサプリメントの 開発への想い。

株式会社Departs(デパーツ)代表の村尾佳余氏。突然の体調不良を救ったビタミンCとの出会いが大きな転機となり、美と健康を根本からサポートする新たな挑戦が始まっています。

ビタミンCのNo.1 ブランドを目指す想い

20年に及ぶ美容業の中で気づいたのは、日々のケアの重要性。研究を続けてきた美容商材やお手入れ法をお客様一人ひとりに寄り添ってご提案したいと、ホームエステをコンサルティン

グする株式会社Departs(デパーツ)を立ち上げました。ところがその後、原因不明の不調に襲われ、体力が衰えて外出も困難になっていました。そんなときに「大丈夫、良くなるから」とクリニックの先生が薦めてくださったのが高濃度ビタミンC点滴とリポソーム型ビタミンCの液状サプリメント。自分でも驚くほど回復することができました。ビタミンCが健康に良いとは知っていましたが、まさかここまでとは。その後、世界はコロナ禍となり、医療現場ではかつてない



株式会社Departs
代表取締役
むらお 佳余
村尾 佳余氏

2016年Departsを開業。2020年に株式会社Departsを設立。カウンセリングを基に最適なケアに導く「顔肌美容研究所」とビタミンCサプリの開発・販売を行う「DUALL事業部」の二本柱で事業を展開。

ほどの困難に直面していました。そんな中、ある大学病院で今まで知らなかった現場の声を聞いたことで「私にも何か出来ることがあるのでは!」と強く感じました。

ビタミンCは必須の栄養成分でありながら意外に役割は知られていません。ビタミンCはコラーゲンを生成して、血管、皮ふ、骨、筋肉などを丈夫にします。免疫力や抗酸化力をアップし若返り作用があるなど、マルチな効果のある栄養素です。しかしながら人の体内で作ることはできず、一般的なビタミンCは体外に排出されてしまうため1日に数回摂取の必要性があります。通常のサプリメントより体内吸収率が高いリポソーム型ビタミンCも多数ありますが液状や粉末、大豆アレルギー、熱に弱い課題がありました。食事として毎日、続けていくためには…ビタミンCサプリの開

発プロジェクトが始まりました。

将来の栄養不足を救う プロジェクト発足

おかげさまで信頼できる医療や美容など多方面の方々の協力を得て、リポソーム型ビタミンCサプリア「DUALL(デュアル)」を開発することができました。課題をクリアし更に飲み易さを考えたカプセル化。現在、日本二のブランドに育てようとチームDUALLを結成し全国を飛び回っています。

これからの日本は、超高齢化や単身世帯の増加、物価高騰などで食生活が疎かになり、栄養不足が加速する懸念があります。また災害大国でもあり、防災食としてのサプリア需要も高まるでしょう。健康と美容に貢献するビタミンCの認知度を上げ、未来につなげるために、医療、農業、飲食など多分野が協働する「CCPROJECT」をこのほど立ち上げ、協力企業を募っています。「目覚めがいい」「シミが消えていく」「二日酔いがない」「アトピー性皮膚炎が治った」驚く声が届くようになりました。2025年より限定された病院、クリニック、薬局への認定取扱い先の拡充が始まっています。

鍛え上げた技術と 心に寄り添うサービスで 暮らしの「困った」を解決

日々の暮らしで生じるさまざまな困りごと。それらをすべて頼もしく引き受けてくれるのが便利屋さんです。高齢社会の進行とともに需要が増え続ける便利屋の仕事について、業界大手ベンリーの金沢店店長に伺います。

**辛い所に手が届くサービスを
技術を身につけたプロが提供**

弊社が生活支援サービスベンリーを北陸で展開し始めてから四半世紀が経ちました。現在は福井県と石川県を守備範囲に、日常生活で生じる困りごとを何でも承っています。サービスの種類は言い尽くせないぐらい無数にありますが、主なものを季節ごとに挙げるなら、春は引越し、夏はエアコンクリーニングや草刈り、蜂の巣の処理。年末にはハウスクリーニング、年明け以降は雪かきの依頼が多いですね。

中でも引越しは大人気のサービスです。なぜなら弊社の場合、荷物の運搬だけでなく、電化品の設置や取り外し、ゴミの処分、掃除など、引越しにまつわる作業全般をお引き受けできるからで、その分料金も割安に設定でき、皆様にとっても喜ばれています。



ベンリー北陸・金沢店店長
株式会社幸風

なかの のぶあき
中野 伸明氏

兵庫県神戸市出身。福井工業大学在学中にベンリー北陸でアルバイトを経験し、卒業後に入社。現在は金沢店店長。

私たちが多様な困りごとに適切に対応できるのは、充実した研修制度のおかげです。全員がベンリー本部で技術をみっちり身につけてから現場に出ており、プロならではの確実な作業がお客様の安心や満足に繋がっています。

**人生に寄り添う仕事だから
コミュニケーションが最重要**

もう一つ、技術以上に大切なのがお客様とのコミュニケーションです。家の中に入り込む仕事ですから、信頼していただくことが必須。挨拶の仕方や身だしなみは言うに及ばず、お客様の話にじっくり耳を傾けて、思いに寄り添うサービスの実現に努めています。

私がこの仕事に出会ったのは学生時代のアルバイトでした。人ができないことや辛いことを代行する仕事ですから苦勞も当然多いのですが、終わると必ず「ありがとう」と言っていただけのの

がうれしくて…。他にもいろんなアルバイトをしましたが、これほどの達成感を得られるものはなく、大学卒業後はそのまま社員になりました。

とある日は、屋根裏に迷い込んだ子猫を救うために奮闘し、壁の穴の向こうに元気な姿を見つけて胸を熱くしたり。また別の日にはゴミが山積みのお宅で、ご主人の尊厳を重んじて丁寧に語りあう中で少しずつ距離を縮めていたり…。さまざまな人生の二コマに立ち会う仕事はいつも驚きや感動の連続で、学ばせていただいたことは数知れません。「またベンリーにお願したい」。そう言っていただけの会社であり続けるために、今後も技術を磨きながら真心のおつきあいに励みたいと思います。



ご要望にきめ細かに応えられるよう、打ち合わせも念入りに

仕事と家庭の両立を目指し 薬剤の安全提供を推進



金沢医科大学氷見市民病院
薬剤部 部長

たかの ゆみこ
高野 由美子氏

1984年 大阪薬科大学薬学科卒業、氷見市民病院薬局入局
2008年 金沢医科大学氷見市民病院薬剤部入職
2017年 同院薬剤部 調剤・製剤・治験課 課長

2019年 同院薬剤部 副部長
2022年 同院薬剤部 部長

金沢医科大学氷見市民病院は地域医療を担う中核病院であり、薬剤部は病院の医療クオリティを支える存在。安全性の追求、資格取得の奨励、知識のアップデート、職場環境の向上に励む高野由美子部長にお話を伺います。

責務が大きく、 多岐にわたる薬剤師業務

病院薬剤師は医師の処方に基づいて、患者の情報を確認しながら用量や用法など疑義がないかを確認し、調剤を行っています。

また、病棟及び外来において医師、看護師など他職種及び患者さんからの薬剤の相談や院内各部署の薬品管理、患者さんの薬歴管理、服薬指導などを行うとともに、院内製剤、医薬品情報管理、薬事委員会事務局・治験審査委員会事務局などその他各種委員会活動にも関わっています。

予約入院患者さんに対しては入院時に面談し、現在用いている薬剤について聞き取ります。当院は高齢患者さんが多く、持参薬の再調剤や当院処方との飲み合わせな

ど、入院患者さんの薬剤すべてを管理します。これらの情報を電子カルテに入力し、医師や看護師など全医療スタッフに報告して情報共有を行います。

院内製剤とは、市販されていない薬剤を、医師の要望に応じて作製する業務です。

私たちが調剤する薬剤はこうした服用薬だけでなく、注射薬、抗がん剤、中心静脈栄養なども扱います。抗がん剤に関しては、患者さんに副作用を説明するのも薬剤師の役目です。

また、感染対策チームや糖尿病教室など様々なチーム医療、癌リハや心リハなどのカンファレンスにも積極的に取り組んでいます。当院は病床数250床、比較的コンパクトですので、医療スタッフのコミュニケーションは良好だと感じています。

優れた業務を支えるのは スタッフの満足度

私たちが第一としているのは、安全な薬剤の提供です。錠剤分包機で入院処方を1種類でも服用時間ごとに1包化している点は、当院薬剤部の特徴と言えるでしょう。持参薬も1包化して再分包を行っています。さらに、朝・昼・夕に飲む薬が入る内服セットを看護師とともに用意して飲み間違いを防いでいます。

昨年、新しくピッキングサポートシステムを導入しました。ピッキングは処方箋に基づき医薬品を必要な数取り出す作業。これを最新の装置にまかせることで薬剤の取り間違いをほぼ無くしました。

このほか、抗がん剤による曝露を防ぐ安全キャビネット、中心静脈栄養の無菌調製を行うクリーンベンチなども活用しています。

目下、私たちの喫緊の課題は人材の確保。対策として、本院薬剤部と

市が協定を結んでいる名城大学の薬学部学生を対象に見学の受け入れを行っています。さらに氷見市では全国の薬学部生を対象とした奨学金制度も整備されています。

一方、薬剤部スタッフは、産休・育休、子育て、親の介護などを抱えていて、お互いさまの気持ちで助け合っています。家庭が安らいでいれば安心して仕事ができる。薬剤師の務めに働きがいを感じられることと、家庭を大切にすることを両立してほしい。そのために、働きやすい職場づくりにがんばりたいと思っています。



安全な薬剤の提供を第一に業務にあたる薬剤部スタッフ